

アスパラガス特報

令和3年6月17日
J A 中野市営農センター
J A 中野市アスパラガス部会

散布間隔をあけず防除の徹底を！

連続した降雨や気温の上昇によって病虫害の発生しやすい時期です。特に例年降雨が増える6月中旬～7月は茎枯病の重要防除時期です。予防散布が重要であり、症状が出てからでは手遅れとなります。次年度の収量向上を図る上からも防除の徹底をお願いします。

1. 病虫害防除 例年オオタバコガの発生が増える時期です。 [ハウス]

時期	薬剤	濃度	10a 当り 散布量	薬剤調合(水 100 ㍓当り)	対象病虫害 () 内は発生害虫
6月 下旬	コルト顆粒水和剤	4,000 倍	300㍓	<ul style="list-style-type: none"> 水 100㍓ 展着剤 (ハテナワラー) 20m㍓ コルト顆粒水和剤 25g 	ネギアザミウマ、 カスミカメムシ類
7月 上中旬	ベネビアOD シグナムWDG	4,000 倍 1,500 倍	300㍓	<ul style="list-style-type: none"> 水 100㍓ 展着剤 (ハテナワラー) 20m㍓ ベネビアOD 25m㍓ シグナムWDG 66g 	ハスモンヨトウ・(アザミウマ類) 茎枯病・斑点病・褐斑病
7月 中下旬	コテツフロアブル (劇) コサイド 3000	2,000 倍 2,000 倍	300㍓	<ul style="list-style-type: none"> 水 100㍓ 展着剤 (ハテナワラー) 20m㍓ コテツフロアブル 50m㍓ コサイド 3000 50g 	オオタバコガ、ハスモンヨトウ (アザミウマ)・ハダニ類 茎枯病、斑点病、褐斑病、(疫病)
8月 上中旬	ダントツ水溶剤 ベンレート水和剤	4,000 倍 2,000 倍	300㍓	<ul style="list-style-type: none"> 水 100㍓ 展着剤 (ハテナワラー) 20m㍓ ダントツ水溶剤 25g ベンレート水和剤 50g 	アブラムシ類・ネギアザミウマ カメムシ類・ジュウジツシバノガハムシ 茎枯病・(斑点病) (褐斑病)・株腐病

[露地]

時期	薬剤	濃度	10a 当り 散布量	薬剤調合(水 100 ㍓当り)	対象病虫害 () 内は発生害虫
6月 中下旬	コサイド 3000 コルト顆粒水和剤	2,000 倍 4,000 倍	300㍓	<ul style="list-style-type: none"> 水 100㍓ 展着剤 (ハテナワラー) 20m㍓ コサイド 3000 50g コルト顆粒水和剤 25g 	茎枯病、斑点病、褐斑病 ネギアザミウマ、 カスミカメムシ類
7月 月上旬	ベネビアOD シグナムWDG	4,000 倍 1,500 倍	300㍓	<ul style="list-style-type: none"> 水 100㍓ 展着剤 (ハテナワラー) 20m㍓ ベネビアOD 25m㍓ シグナムWDG 66g 	ハスモンヨトウ・(アザミウマ類) 茎枯病・斑点病・褐斑病
7月 月中旬	コテツフロアブル (劇) コサイド 3000	2,000 倍 2,000 倍	300㍓	<ul style="list-style-type: none"> 水 100㍓ 展着剤 (ハテナワラー) 20m㍓ コテツフロアブル 50m㍓ コサイド 3000 50g 	オオタバコガ、ハスモンヨトウ (アザミウマ)・ハダニ類 茎枯病、斑点病、褐斑病
7月 月下旬	プレオフロアブル ベンレート水和剤 (注1)	1,000 倍 2,000 倍	300㍓	<ul style="list-style-type: none"> 水 100㍓ 展着剤 (ハテナワラー) 20m㍓ プレオフロアブル 100m㍓ ベンレート水和剤 50g 	オオタバコガ・ハスモンヨトウ ヨトウムシ・ネギアザミウマ 茎枯病・株腐病

(注1) 露地栽培で、夏秋収穫しない圃場ではベンレート水和剤をジマンダイセン水和剤 (500 倍) に変えて散布する。

[特別散布 ハウス・露地共通] 疫病対策 (7月下旬～8月上旬) 株元へ散布する。

薬剤	濃度	10a 当り 散布量	薬剤調合(水 100 ㍓当り)	対象病虫害
フォリオゴールド	1,000 倍	300㍓	<ul style="list-style-type: none"> 水 100㍓ アビオン-E (展着剤) 100m㍓ フォリオゴールド 100m㍓ 	疫病

裏面もご覧ください

2. 防除のポイント

- *樹勢の維持、または樹勢の低下している園地は、農薬散布時に「アミノメリット特青」500～600倍を加用して葉面散布する。（その場合、通常の展着剤不用）
- *スリップスが多発している場合は、「ダントツ水溶剤」の濃度を2,000倍液で散布する。
- *雨よけ栽培で、ダニの発生が多い場合は、コロマイト乳剤1,000倍液を定期防除に混用する。但し、ボルドー液との混用不可。
- *土壌病害（立枯れ症状）が発生している場合は特別散布のフォリオゴールドを株元を中心に散布する。

3. 茎枯れ病対策 **重要！！**

露地栽培を中心に、茎枯れ病の病斑が見られます。発生が部分的で軽微な場合は病斑の出ている茎を除去して圃場外に持ち出す。圃場全体で病斑が発生している場合は、梅雨明け後の7月中旬頃に全刈りし再立茎してください。

4. オオタバコガ対策

例年、7月中旬～8月上旬に発生が多くなります。7月上旬～8月上旬の防除を徹底することで8月下旬～9月上旬の発生ピークを抑えることができます。

5. 排水対策

滞水のしやすいほ場等では立枯症状や生育不良の園地が見られます、特に立枯症状は若年生株で発生が多く、一度発生すると手遅れとなりますので、降雨後、圃場内に水が溜りやすい場合は、排水溝を設けて停滞水の排水に努めて下さい。

6. 夏肥について

☆ハウスでは6月下旬～7月上旬に10a当り「追肥グリーン2号」を20kg追肥して下さい。

☆夏秋どり（露地）は、7月中旬～8月中旬にかけて4回「追肥グリーン2号」を10日間隔で10a当り10～20kg（7/中～7/下は20kg、8/上～8/中は10kg）施用して下さい。

☆夏秋どり（ハウス・省力型）は「アスパラによきによき」を元肥で施用しているため、8月中旬に「追肥グリーン2号」を30kg追肥して下さい。

7. 茎葉管理

- ・**茎枯病対策として、立茎数の制限、畦面へ敷きワラや有機質マルチの実施、随時被害茎葉の摘除と圃場外への持ち出しをしてください。**
- ・必要茎葉量を確保し、病茎や不良茎、倒伏茎は抜き取り焼却して下さい。
- ・下葉や横枝を整理し、通風・透光をはかる。
- ・立茎については、9月からの養分蓄積に備え、下記の茎数は最低確保する。なお、一般作型で夏秋収穫をする園地で6月上旬以降に立茎を始めた場合は、立茎数を6本程度とする。
- ・生育状態が悪く細茎が多い場合でも刈り取りせず立茎させ、必要本数は確保して下さい。
- ・先刈りは、展葉後先端が垂れ下がった頃に軽くなる。
- ・**過繁茂防止のためにも積極的な夏秋収穫を行ない、多収と品質向上に努めましょう。**
- ・夏秋収穫は株当たり、または1m当たりの必要立茎数を確認のうえすすめてください。

*1株当たり目標立茎本数の目安

	夏秋収穫する園地	夏秋収穫しない園地
立茎数	4～5本	6本程度

草丈150cm以上・太さL級程度(4本L～3本2Lクラス)の茎とする。

*1m当たり立茎本数の目安

	夏秋収穫する園地	夏秋収穫しない園地
立茎数	15～18本 (長期どり12～15本)	20本程度

8. かん水

かん水による生育、収量への効果は顕著ですので、定期的の実施して下さい。なお急激に多量のかん水は落葉等の生理障害や病気発生（根腐れ）につながるので注意する。